

図表1 ICS監督層職位名

組織レベル	職位名	補佐職位
インシデント指揮	インシデント指揮者	代理 (Deputy)
指揮スタッフ	オフィサー (Officer)	補佐 (Assistant)
一般スタッフ (部門)	チーフ (Chief)	代理 (Deputy)
支部 (Branch)	支部長 (Director)	代理 (Deputy)
地区／集団 (Division/Group)	監督者 (Supervisor)	(非該当)
班 (Unit)	リーダー (Leader)	管理者 (Manager)
ストライクチーム／タスクフォース	リーダー (Leader)	シングルリソース・ボス

- 以下については共通用語を使用する。
- 組織の機能
 - インシデント対応施設
 - 資源の説明
 - 職位名
- ⑦ ICSの組織
- 「指揮、運用、計画策定、物資調達、財務・総務」の主要5機能からなる。インシデントの規模と複雑性に応じ拡張可能な組織構造を持つ。
- ① 統制範囲
- 部下の数は3〜7で、5以下がよい。
- ② モジューラー組織
- 統制範囲に合わせて展開縮小する。

- ③ 典型的な組織構造
- 全インシデントの95%において、組織構造は「指揮（層）」と「シングルリソース」から成る。
- ④ インシデントの拡大
- 単一資源で対処し始めたインシデントも、急激に拡大し、追加の資源や支援が必要になることがある。
 - インシデントの拡大に応じて、組織構造に監督層を追加することがある。
- ⑤ 職位名の使用
- 所定の職位名を使用する目的：
- 共通の基準を提供する。
 - 適格者が職位に就くようにする。
 - 要求された者の適格性を保証する。
 - 情報伝達を標準化する。
 - 職位の責任を定義する。
- ⑥ 監督層の職位名（図表1）
- ③ 権限と目標による管理
- ① 権限範囲
- 指揮者の権限範囲は次による。既存の法、機関の方針、手順、機関の管理者や公選人からの権限委譲。
- ② 権限委譲
- 特定機能の実行権限を保障する。
 - 機関の長が文書か口頭で発令する。
 - 指揮者が指揮を執るのを許可する。
- 権限者をインシデントに対する最終

- 責任から解放するものではない。
- ③ 権限委譲が必要な時とは
- 事態が指揮者の管轄区域を超える時
 - 事態の範囲が複雑、または既存の機関の管轄範囲を超える時
 - 法や手順により要求される時
- ④ 権限委譲の9要素（略）
- ⑤ 権限行使
- 指揮者は目標を設定し、戦略・資源・組織構造を決定する。
- ② 目標による管理
- ICSは目標によって管理される。
 - 目標は、計画策定プロセスを通じてICS組織全体に伝達される。
- ① 目標の設定と遂行（6ステップ）
- 機関の方針や指示を理解する。
 - インシデントの状況を査定する。
 - インシデント目標を設定する。
 - 目標達成に適した戦略を選択する。
 - 戦術レベルの指示を実行する。
 - 必要なフォローアップを行う。
- ② 初期対応・見積もりの実行
- 初期対応要員の決定する事項：
- インシデントの性質と強度
 - 危険性、および安全に関わる懸念
 - 初期優先順位および当面の必要資源
 - 指揮所とステージングエリアの配置
 - 対応要員の進入および退出の経路
- ③ 全般的優先順位
- 目標設定は次の優先順位に基づく。
1. 生命の安全
 2. 事態の鎮静化
 3. 財産の保全
- ④ SMARTインシデント目標
- 効果的なインシデント目標の特徴：
- 特定の (Specific)
 - 測定可能 (Measurable)
 - 行動志向 (Action oriented)
 - 現実的 (Realistic)
 - 期限付き (Time sensitive)
- ⑤ 目標・戦略・戦術
- 目標・何を達成するかを述べる。
 - 戦略・目標達成に向けた概略の計画ないし指示を立案する。
- ⑥ 災害対応計画 (IAP) の4要素
- 我々は何をしたいのか？
 - 誰がその責任を取るのか？
 - お互いにどのように連絡を取るのか？
 - 誰かが負傷した場合の手順は何か？
- ⑦ 準備計画と協定
- 最も一般的な準備計画は以下の通り。
- 連邦・州・地方の非常時運用計画 (EOPS)
 - 標準運用ガイドライン (SOGs)
 - 標準運用手順 (SOPs)
 - 管轄当局や機関の方針
- ⑧ 非常時運用計画 (EOPS)
- あらゆる災害に統一した対応を行うために連邦・州・地方レベルで策定。2005年10月以降はNIMS (National Incident Management System) に合致したものでなければならぬ。
- ⑨ 相互扶助・支援協定（略）
- ⑩ 計画から導き出される情報

インシデント・コマンド・システム (ICS): 基礎編 (ICS200) 概要

一般社団法人レジリエンス協会代表理事
一般財団法人リスクマネジメント協議会評議員

黄野 吉博

一般社団法人レジリエンス協会

白澤 健志

前回の入門編 (ICS100) に続き、基礎編 (ICS200) の内容を抄訳し紹介する。内容的にICS100と重複する部分も多く、紙幅の関係上そのような部分を中心に省略させていただいたので、前回の内容も併せて参

照されたい。

なお、本稿は独自に訳出しており、現在国内の関係者が準備中の全訳版とは訳語等が異なるので留意されたい。

コースは8つの単元で構成される。

単元1：コースの概要

単元2：リーダーシップと管理

単元3：権限委譲と目標による管理

単元4：機能分野と職位

単元5：ブリーフィング

単元6：組織の柔軟性

単元7：指揮の移行

単元8：コースのまとめ（略）

以下、単元に沿って説明する。

① 指揮系統

組織内での業務の割り当てや資源の要求は、組織図上で直接の上下関係にある者の間でのみ行われる。

② 指揮の一元性

各要員が、報告し、また業務の割り当てを受ける監督者はただ一人である。

③ 統合指揮

統合指揮の組織は、多様な管轄当局や組織の指揮者達で構成される。施設は共用、目的や計画策定プロセスや災

害対応計画は単一である。一般スタッフは統合され、運用部門も一つである。

④ コミュニケーション

業務指示、増援要求、進捗報告は指揮系統に沿った公式なコミュニケーションとして行われる。それ以外の情報交換は、非公式なコミュニケーションとして組織内で自由に行われる。特に重要な情報は、組織内を自由に流れるようにしなければならない。

⑤ リーダーシップ

リーダーシップとは、危険でストレスの多い環境で困難な任務を達成するために働いている要員に、目的・方針・士気を与えることである。

① リーダーシップに共通する責任

- 業務を確実に安全なものにする。
- 割り当てられた資源を指揮する。
- 「安全にできる」という態度で士気を鼓舞する。
- 率先垂範する。
- 特別な指示を与え、そのフィードバックを求めコミュニケーションする。
- 活動状況を監視する。
- 計画の実効性を評価する。
- 計画や指示を修正する必要性を理解し、受け入れる。

② リーダーシップと責務

リーダーはリーダーシップ原則を知り、理解し、学んでおくべきである。

これらの原則とリーダーシップの価値の関係を認識しておくべきである。

あらゆる面でプロとしての責任を持ち

① コースの概要

コースは8つの単元で構成される。

単元1：コースの概要

単元2：リーダーシップと管理

単元3：権限委譲と目標による管理

単元4：機能分野と職位

単元5：ブリーフィング

単元6：組織の柔軟性

単元7：指揮の移行

単元8：コースのまとめ（略）

以下、単元に沿って説明する。

⑥ ミニケーションの責任

① 重要情報を確実に共有する方法：

- 必要に応じ他人に伝える。
- 取った行動を説明する。
- 危険を他人に伝える。
- 伝言を受領したことを伝える。
- 知らないことは尋ねる。

② ブリーフィングの3要素

任務・目的・完成状態

③ インシデント管理アセスメント

アセスメント方法に含まれるもの：

- 修正行動報告と活動後の振り返り
- インシデント後の分析
- デブリーフィング
- インシデント後の評価
- 減災計画

④ 共通用語の使用

インシデントが正式に定義されたら、

最高を目指すと言明すべきである。

③ コミットメントと責務

- 権限の及ぶ限り、事に責任を持つ。
- 指導的役割の継承に備える。
- 担当業務に熟達する。
- 的確で時宜を得た判断をする。
- 任務を確実に周知する。
- 将来のために部下を育成する。

④ リーダーシップと敬意

- 部下を知りその幸福を追求する。
- 部下と上司に常に情報を伝える。
- チームをつくる。

⑤ リーダーシップと誠実

- 自身を知り、改善に努める。
- 自らの行動には進んで責任を取る。

- 当該地域の危険とリスク
- 当該地域の資源
- 他の公式な協定や計画
- 機関の管理者や対応要員の連絡先

4 機能分野と職位

(1) 指揮者

●指揮者はインシデント管理の全体責任を有し、目標を設定し、災害対応計画の承認と資源管理をする。各機能が始動するまでは全機能の役割を担う。

(2) 代理指揮者(略)

(3) 指揮スタッフ

- ①広報担当者(略)
- ②安全担当者(略)
- ③渉外担当者(略)
- ④補佐(略)
- ⑤支援機関
- インシデントに直接の責任を有し、人や業務やその他の資源を提供し支援する機関。
- ⑥協力機関
- 責任は有さず支援を提供する機関。
- ⑦機関の代表者
- 支援機関や協力機関が任命する。
- 権限委譲を受けて決定を行う。
- ⑧インシデントの拡大
- 指揮者は次の者に権限を委譲できる。
- 部門チーフ

- 支部長
- 地区または集団の監督者
- チームまたは班のリーダー

(4) 運用部門

- ①運用部門チーフ
- 運用活動の直接管理に責任を持つ。
- 運用期間毎の戦術目標を立てる。
- 災害対応計画の備えに直接関わる。
- 代理が割り当てられることがある。
- ②運用部門のステージングエリア
- インシデントに即して設営される。
- 割り当てられ、展開準備が整った資源で構成される。
- 利用できない資源は配置しない。
- ③ステージングエリアの指揮系統
- 管理者の報告先は運用部門チーフ。
- ④地区と集団
- 地区は地理的に、集団は機能的に、インシデント対応資源を組織したものの。
- ⑤支部
- 支部はインシデント対応の主要部分に、機能的または地理的に責任を負う。
- ⑥航空運用支部
- 大規模インシデントの際は、航空運用の組織を支部として独立させる。
- ⑦計画策定部門
- 資源班・状況班・撤収班・文書班で構成され、次のことを行う。
- 資源や状況を整える。
- 災害対応計画と撤収計画を備える。
- 戦略を立案する。
- 文書管理業務を行う。

- 技術的専門家に場所を提供する。

(5) 物資調達部門

●次のことに責任を負う。

●情報伝達

●対応要員への医療支援、食糧調達

●補給・施設・集団の支援

①物資調達部門：サービス支部

●情報伝達班、医療班、食糧班で構成。

②物資調達部門：サポート支部

●補給班・施設班・集団支援班で構成。

(6) 財務・総務部門

●必要時に設置する。資産の損壊や死傷が発生した時の保障対応も行う。

(7) ICSの道具

●ICS書式、職務記述書、EOPS、機関の方針手順マニュアル、地図

(8) ICS書式

- ①ICS書式201「インシデントブリーフィング」に含まれる基本事項
- インシデントの状況(地図・事象)
- インシデント対応の目標
- 現時点での活動の概要
- 資源の割り当ておよび発注の状況
- ②よく使われるICS書式20種(略)

5 ブリーフィング

●効果的なブリーフィングと会議は、インシデント管理に不可欠である。

①ブリーフィングのレベル

●スタッフレベル：指揮所やベースで間接要員を対象に行われる。

●現場レベル：現地で任務にあたる現場要員を対象に行われる。

●部門レベル：部門全体で初期配置時や監督層の着任時に行われる。シフト交代時や新規資源の展開時に行う「運用期間ブリーフィング」を含む。

②トピックスのチェックリスト

●現況と目標

●安全上の課題と非常時の手順

●職務

●施設と活動地域

●情報伝達に関する取り決め

●監督層の期待する成果

●資源・消耗品・器材の獲得手順

●活動スケジュール

●疑問点ないし懸念事項

③スタッフレベルのトピックス8(略)

④現場レベルのトピックス9(略)

⑤部門レベルのトピックス9(略)

⑥運用期間ブリーフィング

●シフト交代時に、運用部門の監督者に次期の災害対応計画を提示するものであり、簡潔を旨とする。

6 組織の柔軟性

(1) 柔軟性と標準化

●ICSの重要原則は柔軟性であり、組織は平常時の小規模から惨事対応時の大規模まで容易に拡張可能である。

●標準化は柔軟性を制限しない。

①モジュラー組織(略)



図表2 職位の結合の回避



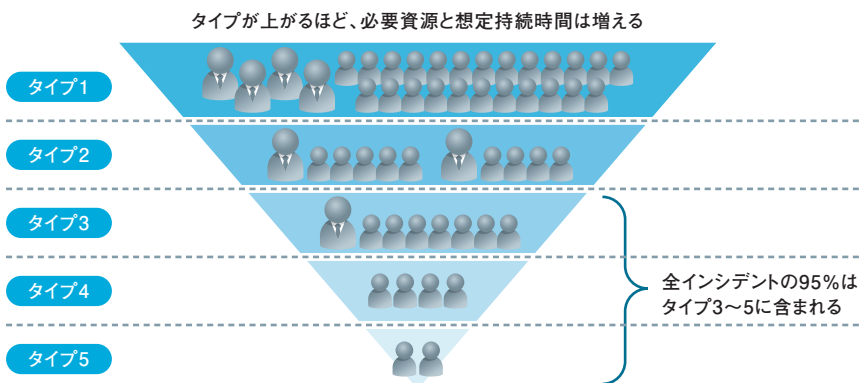
- ②ICSの拡張と構築(略)
- ③組織要素の立ち上げ(略)
- ④職位の結合の回避
- 人員効率化のために異なる職位を結合するのは避けるべきである。必要なら一人に複数の班を監督させること。

(図表2)

(2) 資源管理

- 「必要性の確認」「発注」「受領と追跡」「利用と評価」「撤収」で構成される。
- ①資源の必要性を予測する(略)
- ②複雑性を分析する(略)
- ③複雑性分析の要因(略)
- ④インシデントの複雑性と資源の必要性
- 複雑性が増すほどより多くの資源と大きな組織が必要となる。
- ⑤資源の「種類」と「タイプ」の違い
- 前者はそれが「何か」を表わし、後者はその規模や性能の区分。
- ⑥資源のタイプの重要性

図表3 インシデントの分類(概念図)



指揮組織は事態を掌握するまで初期対応を実施する。タイプ3以上では対応は複数のシフトにおよび、文書化された災害対応計画が必要となる。

●タイプ2：国や地方の資源が必要となる。多くのまたは全ての指揮および一般スタッフの職位に人が割り当てられる。運用要員は1シフト200人未満、全体で500人未満。

●タイプ1：国の資源が必要。全ての

7 指揮の移行

- ①指揮が移行される時とは
- 法の要求による時
- 効率性のために必要な時
- インシデントの複雑性が変わる時
- 長期従事者を業務から解放する時
- 個人的な非常事態の発生時
- 機関の管理者が変更を指示した時
- ②より適任の者の着任(略)
- ③指揮の移行の手順(略)
- ④ブリーフィングの9要素(略)
- ⑤ブリーフィングの書式(略)

二回に渡りICSの基本概念を紹介した。今後、ICSは日本でも本格導入されることが見込まれる。FEMAのWEBサイトではさらに多様な教材が閲覧できるので是非参照されたい。今回はNIMSの概要を紹介する。